

自然を学ぶ
(緩衝地域)

自然を守る
(核心地域)



自然と暮らす
(移行地域)



緩衝地域

緩衝地域は調査研究、教育、観光の場として活用されています。自然環境の保全と適切な利用への理解を深めるため、防鹿柵の設置や植生調査、高山植物保護セミナー、エコツアーなど様々な取り組みが行われています。

高山植物保護セミナーに参加する高校生

私たちが暮らす
南アルプス
ユネスコエコパーク

南アルプスとその麓の地域がユネスコエコパークに登録されてから4年が経ちました。"ユネスコエコパークって、高い山だけの話?" いいえ、いかわねの人々が暮らす場所も、立派なユネスコエコパークなのです。

ユネスコエコパークは、3つの地域区分で成り立っています。大切な自然や、固有の動植物を守っていく「核心地域」、自然の中で楽しんだり、自然について調べたりする「緩衝地域」、自然の恵みを受けて人々が暮らす「移行地域」の3つです。日常の風景だと思っていることも、大事なユネスコエコパークを構成するもののひとつ。受け継がれてきたいかわねの歴史や文化、暮らしは、世界に誇れる価値あるものなのです。



核心地域

川根本町にある南アルプス最南端の2,500m峰・光岳。ハイマツの分布の世界的南限にあたります。エコパークへの登録のほか、屋久島などと同じく、本州では唯一の原生自然環境保全地域にも指定されています。



食 井川小中学校では、お茶以外にも在来野菜や雑穀を育てています。地域を学ぶ総合学習の時間では、自分たちで育てた作物を使って、雑穀クッキーを作ったり在来野菜ピザを作ったりしています。井川を元気にしたいという思いから、商品化を目指して研究中です。

神楽は、古くから井川や川根で、集落ごとに舞い継がれてきました。神楽は神に捧げるものであり、人々の娯楽でもありました。現在も、厄払いや五穀豊穡を願い、お祭り等で披露されています。写真は、井川での昭和の頃のお祭りの風景です。



農 川根と言ったらお茶。その始まりは室町時代以前と考えられています。年に一度の茶摘みには、地元のベテランさんたちがそれぞれの農家を行脚し、熟練の技で次々にお茶を摘んでいきます。歴史と経験、地域の輪によって受け継がれてきた川根茶をぜひご賞味ください。

井川線はもともと水力発電所建設用物資を運搬するための鉄道でした。地元では「エンジン」と呼ばれ親しまれています。平成3年まで道路が通っていなかった川根本町土地区域の人にとっては重要な交通の足でもありました。現在は観光列車として、川根と井川を結ぶ大きな役割を果たしています。



ロゴマーク使って下さい!!

ライチョウをシンボルにした、可愛らしいロゴマーク。このロゴマークは、南アルプスユネスコエコパーク地域に住んでいる方や事業所がある企業のほか、趣旨にご賛同いただける方にも、ポスターや商品のパッケージなどに使っていただけます。



<問合せ先>
静岡市環境創造課 Tel.054-221-1357
川根本町観光商工課 Tel.0547-58-7077

南アルプスユネスコエコパークをもっと知りたい方はこちらへ!



※山梨県、長野県にも情報発信施設があります。QRコードを読み取って詳細をチェック!

情報発信施設

- 資料館やまびこ ●フォーレなかかわね茶茗館
- 長島ダムふれあい館 ●南アルプス山岳図書館
- 南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家
- 南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター



望月将悟さん

植田 僕はまだ夢を追いかけている途中ですが、「ものづくりで人を喜ばせたい」という夢をここで叶えたいですね。工房は自分の活動拠点でもあり、山を愛する人たちが集まって交流できる場になれば面白いと思います。

いかわねの未来と二人の夢

望月 植田くんが川根に来たことはすごく大きいですね。若い人がチャレンジしたり自己実現できる場所であってほしいし、そういう人が増えれば、新しい「いかわね地域」になっていくんじゃないかな? 子どもたちにも夢を与えられると思います。地元でこういう仕事ができるんだ、こういう生き方があるんだってね。

で山登りや釣りを始めました。山が大きいこと、アクセスが不便で出入りする人も少ないこと、沢もたくさんあるし。南アルプスの魅力全部知るのは一生かかっても足りないくらいで、僕にとっては最高の遊び場なんです。なので、南アルプスの玄関口でもあるこの地域に工房を構えたことは、とても自然な流れでした。やはり、将悟さんと南アルプスで出会ったいろんな人たちの影響は大きいですね。仕事を辞めて開業することに不安もありましたが、将悟さんに話したらとても喜んでくれましたよ。



植田徹さん

背負ってたらすごくいいですね。

植田 そうですね。川根に来てまだ数カ月ですが、本当に皆さんによくしてもらっています。地域の人に愛され、ものづくりで地域の役に立つことができれば嬉しいです。

望月 僕は井川が故郷だし、川根にも山を通じて出会った知り合いがたくさんいます。でも若い世代の人はどうなんだろう? 井川と川根の人たちがもつと行き来できるようにしたいですね。やはり川根は観光地だし、若い人が起業したりして、井川出身の僕からしたら羨ましい面もあるんですよ。植田くんの新しいチャレンジもすごく刺激になります。

僕も40代になって、自分の立ち位置というか、今後を考えるようになりました。まだ「夢」とはつきり言えるほどのものはないんですけど、いざは故郷・井川に戻りたいなと思います。

自分を育ててくれた南アルプスや井川の自然に感謝。その土地で育った食べ物で強靱な体を作ってきたので、食にも感謝。そして、何よりも田舎の心を学びました。だから、井川の人や自然に恩返しができるような活動をしていきたいなと思っています。井川や川根の人がいつまでも笑顔で過ごせるように、伝統や文化、観光や自然の大切さなど、いろんな面から井川の良さを伝えていきたいです。



望月将悟(もちつきしょうご) 1977年生まれ、静岡市井川出身。静岡市消防局勤務。トランスジャパンアルプスレース(総距離415km、日本海から太平洋へ日本アルプスを縦断する山岳レース)で4連覇中。



植田徹(うえだとおる) 1988年生まれ、藤枝市出身。前職は小学校教員。今年4月から川根本町千頭に拠点を移し、「ブルーパーク バックボックス」をオープン。バックパック(ザック)などのアウトドア道具をオーダーメイドで製作・販売。

榛原郡吉田町出身。平成3年に川根本町へ移住。標高600mにある平栗地区で、パートナーと羊とともに暮らす。生態系のバランスを壊さない自給自足の暮らしや、身土不二を基本にするマクロビोटニックに取り組んでいる。(一社)エコティかわね理事。



柳原由実子さん(川根)

いかわねへの思い

縁あっていかわねに暮らし始めた人は、それぞれにいかわねに思い入れを持ち、これからの地域のあり方や理想の暮らしを思い描いていることなのでしょう。活躍が期待されるいかわねの2人の女性に、インタビューをしました。



青木美樹さん(井川)

8年程前からパンの移動販売で井川へ通う。プライベートでも井川の行事などに参加し、今年4月に井川へ移住。南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター内のレストランやエコツーリズムをメインに活動中。

井川と川根は同じ大井川流域。もつと繋がっていきたくいですね。両地域がこれから過疎化していく中、地元の人や移住者、それに町内外に関わらずやる気のある若い人たちと、皆でこれからの生き方を考え持続可能な社会を目指したいです。エコパークの定義には「人間と自然の共生を目指すためにモデルとして登録された地域」とあり、まさにこれだと思いました。今年3月には同じエコパークに登録された宮崎県綾町からゲストを招き、自然生態系農業等の考え方を学びました。いかわねに限らず全国のエコパークに登録された市町村の人々が共に学び、繋がることで「持続可能な社会」が実現できると思います。

「ビジターセンターは観光客向けの施設」というイメージが強いのですが、今後は観光客向けだけではなく、地元の人や移住者、それに町内外に関わらずやる気のある若い人たちと、皆でこれからの生き方を考え持続可能な社会を目指したいです。エコパークの定義には「人間と自然の共生を目指すためにモデルとして登録された地域」とあり、まさにこれだと思いました。今年3月には同じエコパークに登録された宮崎県綾町からゲストを招き、自然生態系農業等の考え方を学びました。いかわねに限らず全国のエコパークに登録された市町村の人々が共に学び、繋がることで「持続可能な社会」が実現できると思います。

山里の暮らしに魅力を感じ、今後の人生を井川で楽しもうと移住しました。4月からは、ビジターセンター内のレストランでも働き始めたところなんです。

井川での生活で今一番楽しいのは、畑仕事です。とうもろこしやキュウリのほか、ラディッシュ、ルッコラなどにもチャレンジしています。育てた野菜をサラダにしてレストランでも出せるようになればいいし、今まで以上にたくさん苗を植えました。